
【不思議界記伝 MAO】

MAYUKA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【不思議界記伝 MAO】

【Nコード】

N4359E

【作者名】

MAYUKA

【あらすじ】

ある日冒険家カイザークがアンドレスの奥地で見つけたのは遠い異世界の神話集だった。

不思議谷の勇者

はじめに

私の名はカイザーク、冒険家である

今から話す事は私がアンデス山脈の奥地を旅したさいに、古い洞窟にて発見した書物を解読したものである。どうやら異世界の神話集らしいのだが、マヤでもインカでも、無いようである。ここに書かれていることが全て真実とは思えないのだが書き記す事にした。

1998年

カイザーク17世

第1章 オシメ神による創生神話

〔1〕 世界の誕生

最初宇宙には何も無く、ただ白空の闇が辺りを包んでいたと言う。ある時、空間が二つに裂けるとその中か

ら3面の顔に4枚の翼を持った裸体の女神オシメがエネルギーを放ちながら、星の種を宇宙にばら蒔いたと言つ。

そのひとつナスビの種のような世界が不思議界となつたらしいのである。ファンシー・ゾーン

〔2〕 妖精人達の誕生

オシメが蒔いた種の中には沢山の実が熟しており、それらが妖精達の祖先 妖精人になつたのだつた。

最初に生まれたラマオがリーダーとなり皆を束ねようとしたのだがそこには大きな問題があつた。

世界にはまだ光が無く、真っ暗だったからだ。そこでラマオは天に向つて叫んだ「神様どうか光をください」とすると太陽の精霊リーダーが現れ日の恵を与えた。次にラマオは「土地をください」と叫んだ、

すると大地の精霊ラホメルモアールが出てきて大陸を切り開いた。

最後に「水をください」と叫ぶと、海の精霊の神龍が出てきて、海と川と沼地を作ったのだった。ラマオは割れんばかりの大きな声で「ありがとう」とお礼を述べたのだった。

第二章 5つの世界の誕生

「1」7人の妖精たち

星の種を蒔き終えたオシメが再び、不思議界を訪れた時、人も文明もすでに消え去った後であった。困った女神はヤナホイ、アルモア、ナムジイ、ラウドネス、リブレラ、カワモス、ダイゾネス等、7人の妖精精神を作り、彼等に後を任せ何処かへ消え去ったと言う

「2」妖精達の誕生

まず妖精精神は新たな人間を作らなければならなかった、そこで彼等は ナスビの種とトウモロコシとをすりつぶし、水を加え捏ね合わせて妖精や動物そして他の人間（黒い種族）達を作ったのだった。次に彼等は四方にエルフ、ライオマ、ミレーネ、ルイクス等4つの国を作り、その中心にエンドラの国を作った。そして最後に神奈川県程だった不思議界を、現在の大きさ（地球と同じ）にまで拡張させたのである。

第三章 勇者フデーロ

「1」少女ロズマリナ

日の国、太陽神殿アラーマにはロード神が住んでいた。彼は朝になると 空飛ぶイルカに曳かせた銅の車を操り東の空から昇り、夜は西の方へ消えて行くと言う毎日を日課としていたのだった。ある時ロードは所要のためルイクスの町を訪れた時にミレーネの泉水で水浴びをしていた美しい娘ロズマリナを目にした。ロード神は「これは美しい」と一目で気に入り、太陽の国に連れて行ったのである。

「2」ラホメルモアーラの嘆き

大地の精霊ラブレルモアーラは娘ロズマリナの帰りがばかに遅い事

を心配していた所、どうやら太陽神に攫われたらしいと言う噂を聞いたのだった。

最初は間違いかもしいと思えばしばらく待ってみたのだが何の連絡も無い、やがてそれが事実と分かると、モアーラは嘆き悲しみそれ以来全ての食物が枯れ果ててしまったのである。

「3」不思議谷の勇者

ラードがラホメルモアーラの娘を連れ去って以来 人々はたいへん困っていました。と言うのも種をまいても眼が出ず全く収穫に成らなかったからである。当時ミレーネの国の長をしていたカルトジは、皆をミレーネの神殿に集めて「誰か太陽の国へ行つて、ロズマリナ様を救い出す者はいないか？」と勇者を募ったところ、エルフの国のフデーロと言う少年が「私が参りましょう」と進み出たのだった。カルトジは「日の国は空にあるのだぞ、いったいどうやって行くつもりだ？」と尋ねた、すると「私には友達のもーモ（不思議谷に住む大鷹）が居るのでこれに乗れば天にだってあつという間さ」と答えた。カルトジは「日の国にはそれで行けても、周りは100万度もあるのだぞ、たちどころに溶けてしまふぞ」と言った。これにはさすがに少年も困ったのだった。

その言葉を神殿の奥で聞いていたラホメルモアーラは「もしあなたが娘を救い出してくださいさるのなら、太陽の国に行く時に使うクリムをあげましょうと言って、また泣き崩れたのだった。

カルトジは「少年よ、お前に任せよう
見事姫を救い出してくるが良い」

と言った。フデーロは「それで日の国にはいつ出発すれば良いでしょう」と尋ねたところカルトジは「明日の朝すぐに出発するが良かった」と答えたのでフデーロは早速、日の国へ行く準備を始めたのである。

「4」囚われた姫君

太陽宮殿アラーマの地下の牢獄に一人の美少女ロズマリナが囚われていた、目の前には王冠を被ったハゲタカのような老人が居た 太陽霊神ラード

であった。ラードは「姫よ、そろそろ泣くのは止めて、わしの妻になると誓ってくれぬか」と尋ねた。すると少女は「それは死んでもお断りします。それより私をお母様の所へ返してください」と泣くのだった。ラードは仕方なく「ではもう少し牢獄にいて貰わなければなるまい」と言うのと門番の霊下達に「よく見張っている」と言つて何処かへ行つてしまった。

〔5〕鷹の精霊モーモ

エルフの国は 人間界との国境にあつた。出発の準備を終えたフデオは翌朝 友達の鷹を呼ぶため不思議谷へ向つた、そして大きな声で「モーモ」と呼んだ。すると大きな鷹が舞い降りたのである。フデオはモーモに向つて「太陽の国へ」と叫ぶとモーモは少年を乗せて天高く舞い上がつて言った。

〔6〕霊下長ギリモナイ

ラードの神殿には王を守る10万もの霊下達がいてその隊長が虻の化身ギリモナイである。フデオはすでに神殿の近くまで来ていたのだが、10万もの兵をどうしたものかと？思案していた。するとそこに神龍が現れて「神殿に入ると この粉を撒くといい」と言つて粉を渡した。フデオは「この粉を撒くとどうなるのですか？」と尋ねた。神龍は「時間が止まるのだ、ただし10分だけなので気をつけて使え」と言うのと青いセルゲイアの剣を渡し天に消えて行つた。フデオは神殿のそばまで来ると「不思議谷の者フデオ、ロズマリナ様を貰い受けに来た」と叫んだ。城は大騒ぎとなり たちどころに霊下達がウジャウジャと出現したのだった。フデオはタイミングを計つて神龍から貰つた種を撒いた、すると霊下達の動きが一世に止まったのだ。フデオは「モーモ、今の内に一気に住ませようぜ！」と言うとモーモは「オー」と答えると霊下たちをかき分け神殿内に攻め入つた。地下の牢にはロズマリナが囚われていた、粉の力により宮殿内の時間が凍結していたので門番から鍵を盗みロズマリナを救出するのは簡単だったのである。こうして姫を大鷹に乗せ共に脱出しようとしたときだった、一人の男が行く手を阻

んだ霊下長ギリモナイだった、フデーロは「何故？まだ時間は充分あるはずなのに」と叫んだ。するとギリモナイは「俺も時間を操れるものでね、わるいな。すでにラードは氷河に閉じ込めてある。この神殿はもはや俺様の物さフハハハハ」と笑うのだった。

「フ」勝負の行方は

ギリモナイはミレーネ国一の剣士であると亡くなったおじいさんから聞いた事があった、しかしフデーロは怯まず「勝負だ！ギリモナイ」と叫び神龍に貰った青いセルゲイアの剣を振りかざし、ギリモナイに向って行ったのである。ギリモナイは「よかるう、それほど消滅したいのならばかかって来るがいい」と言うと強魔の剣で迎え撃つたと言う。戦いは熾烈を極めたが、フデーロは段々に追い詰められて行つたのだ。もう後が無いと思われた時何処からともなく矢が飛んできてギリモナイに刺さった。ギリモナイは思わず「ウオアー」と叫びを上げた、その一瞬の隙をセルゲイアの剣がつかぬいたのだ。

「おのれー」ギリモナイは怒りの形相で振り向くと、そこには太陽霊神ラードが居たのである、ギリモナイは「どっ！どうしてお前がここに？」と尋ねた、するとラードは「わしも危ない所を神龍に助けられてナ、それにオマエの野心は初めからわかっておつたわ」と笑った。ギリモナイは雄叫びを上げそのまま絶命した。

ラード神は「すまなかつた少年よ、ロズマリナは連れて帰れば良い」と言うと神殿は霧に包まれて跡形もなく消え去つたのである。気が付くと少年はミレーネの荒野にロズマリナと共に倒れていた。

この結末をたいへん喜んだ母ラホメルモアーラは勇者フデーロとロズマリナの2人を結婚させ宮殿内に住まわせ仲良く暮らしたのであった。それ以後ミレーネには毎年、豊富な作物が実り国はますます栄えたという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4359e/>

【不思議界記伝 MAO】

2010年12月17日15時33分発行